暮らしを潤す ぬまづの水

本市は、柿田川をはじめ、富士山麓からの豊富な湧水に恵まれ、豊かで良質な水が皆さんの暮らしを潤しています。
全国に誇れる「ぬまづの水」は、どのように皆さんのもとに届けられ、どのように利用されているのか。
今回の特集では、皆さんの生活に欠かせない「ぬまづの水」の魅力に迫ります。

自然からの贈り物

沼津の水道水はどこから来るのか皆さんはご存知ですか？

本市では、原や青野、内浦、江梨など18カ所の水源地から水を取水しており、その中でも全体給水量の約6割を占めているのが清水町八幡にある「泉水源地」です。

日本三大清流の一つに数えられる柿田川。そのすぐ西に位置し、東洋一の湧水と呼ばれる柿田川湧水群のひとつである泉水源地は、沼津市の水道における拠点的施設です。湧水量は1日あたり13万トンを誇り、そのうち6万トンが取水され、各家庭に行き渡ります。清水町全域への給水も含め、約15万人の人たちの生活を支えています。

柿田川は、富士山周辺に降った雨や雪解け水が地面に染み込み、地下水となって湧き出る湧水群を水源とした、全国でも珍しい河川です。また、全長わずか1.2kmと日本で最も短い一級河川でもあります。泉水源地も含めて、一日約百万トンもの水が湧き出ており、その量は富士山全体の地下水量の約2割にも相当します。湧水を水源としていることから、かつては泉川（いずみがわ）、地域では泉郷（いずみさと）と呼ばれていたそうです。

柿田川の水温は年間を通じて15度前後と安定しており、日当たりがよく冷たい水の中でしか育たないミシマバイカモが花を咲かせ、清流を好み生息するカワセミなどが見られます。

良質で豊富な水量を誇る柿田川湧水は、私たちの暮らしに幸せと安心を与えてくれる、まさに自然の恵みと言えます。

美しい柿田川の水中で花を咲かせるミシマバイカモ

Proud NUMAZU

安全で美味しい ぬまづの水

蛇口をひねるときれいな水が流れる沼津市の水道は、戦後から始まり、自治体が運営する水道としては比較的歴史が浅いものと言えます。

「沼津」という名が示すように、市内全域にわたる豊富な地下水を有しており、堀抜井戸などにより容易に飲料水が利用できる環境にあったため、かつては、各地域や集落が主体となって運営する小規模な水道が十数カ所で運営されていました。

しかし、これらの小規模水道も戦災により、ほとんどの施設が損壊してしまいます。市内全域に水道を供給するため、かねてより計画のあった水道創設事業が昭和22年8月に認可されると、翌年から施設整備を進め、以前からある地域の水道を合併しながら、昭和25年7月に泉水源地からの給水が開始されました。これが実質的には、現在の沼津市水道事業の出発点と言えます。

創設事業では、水源地や配水池等の主要施設の多くを旧海軍から無償貸与を受け、それらをもとに増補、改良が進められたため、比較的短期間で完成しています。また、良質で豊富な水を湧き出す泉水源地が柿田川畔の清水町内にあったことから、両市町の協定により、沼津市と清水町を給水区域とする水道事業として発足したのも大きな特徴の一つです。

現在、本市では泉水源地を含む、様々な水源地から市内全域に水道水を供給しています。皆さんが生活する上で欠かすことのできない水。安全で美味しい水を確実にお届けできるよう、水道施設の監視や水質管理に取り組んでいます。

今も生活の中にある湧水

本市西部の浮島・原・愛鷹地区などでは、住宅地をひとたび離れると、のどかな田園風景が広がります。この辺りでは、古くから愛鷹山麓からの地下水があちらこちらで湧き出ており、農業用水や生活用水として地元の人に広く利用されてきました。手をひたしてみると、ひんやりとした冷たさで、暑い季節には、庭先の流水で夏野菜を冷やす光景を見かけることができます。

沼津市の湧水は日常に溶け込み、決して派手ではありませんが、自然の恵みは、ここに暮らす人たちを豊かにしてきたことは間違いありません。長い年月をかけこんこんと湧き出す水は、地域に受け継がれる沼津の誇りです。